

あいにでしょ



「災害列島」に生きる

テレビ番組の中で興味深い話がありました。日本人らしさの根源が過去1万年にわたる巨大な噴火などの「災害列島」での経験にあり、謙虚さ、忍耐強さ、協調性、無常観といった日本人の精神性は自然の驚異を生き抜く過程で生まれたというものです。

いぶりたすけ愛の発会した1995年は阪神淡路大震災があり、グループリビングを建てた2006年には新潟中越沖地震、共生型基盤整備事業「ともかな」が開設した2011年は東日本大震災の年でした。他にも、31年間には、記憶に残るだけでも、有珠山の噴火があり、熊本地震・胆振東部地震・能登半島地震がありました。

昨年7月にはカムチャッカ地震による津波警報があり、12月には青森沖地震がありました。確かに多くの災害があったことに驚きます。今後も根室沖・千島海溝の超巨大地震・南海トラフ巨大地震が予想され、まさに「災害列島」であることをあらためて実感します。

自然災害は、いまだに人間に止める力はなく、いかに備えるか、いかに逃げるかが課題です。私たち日本人は「災害列島」で、多くの犠牲者を出しながらも忍耐強く協力して復興してきました。ただ人間が作った原子力発電では、被害をさらに大きくし、25年が過ぎても復興はまだできていません。

そして、今、世界では戦争が起きています。戦争は街を破壊し、多くの人命が失われています。戦争は自然災害とは異なり、人間が起こすものです。戦争を止めることができない人間の愚かさを悲しく思います。

私は戦争を知らない世代ですが、北方領土から逃げてきたよし子さん。満州から家族を亡くし波乱万丈で引き揚げてきた清子さん。二人が残した、「戦争は絶対にダメだよ！」の言葉を決して忘れないように心に刻み、伝えていきたいと思います。

「災害列島」に生きる私たちは謙虚に、忍耐強く、協調性をもち、今を大切に生きていきたいという思いを一層強くしています。長い人類の歴史の中の、小さな点でしかない私たちの時代ですが、歴史の延長線上にあり、次の世代に繋がっていることは確かです。(星川光子)

編集・発行

特定非営利活動法人 いぶりたすけ愛

住所：登別市桜木町3丁目2-10

TEL (0143) 88-2626 FAX (0143) 81-2345

◇クレープのお店 YOTUBA が仲間入り

ともかなレストランに新しいお店がオープンしました。クレープの店 YOTUBA です。営業日は月1回、第1日曜日のみの限定出店です。(5月はお休みさせていただきます。)

YOTUBAさんのクレープは、四角いクレープに具をのせて手包みするタイプのものです。朝、お店でクレープを焼いて作り置きしてあるため、待つことなくすぐに購入できるのも魅力です。

私はダブルクリームをいただきました。クレープの生地はなめらかでもっちり。手に持つとずっしり重たく、クリームの量がたっぷりで大満足。

登別市内でこんなにおいしいクレープが食べられるなんて、日曜日が待ち遠しい！

飲み物は5種類あり、価格もとってもリーズナブル。また、お昼営業ということで食事できるようにミニ牛すじカレーも用意してあります。(河上良枝)

メニュー

【クレープ】

- | | | |
|-----------|------|-------------|
| ・ダブルクリーム | 350円 | 生クリーム+カスタード |
| ・カスタード | 320円 | カスタードのみ |
| ・生チョコ | 380円 | 生クリーム+生チョコ |
| ・ばななチョコ | 380円 | チョコクリーム+ばなな |
| ・期間限定クレープ | 380円 | 4月は抹茶あんこ |

【食事】

- | | |
|-----------|------|
| ・ミニ牛すじカレー | 500円 |
|-----------|------|

店内での飲食はもちろん、テイクアウトもOKです。

営業時間は11:00から15:00(クレープ完売閉店)です。皆様ご来店を。



店名の由来は、ヨツバのクローバーを見つけた時のような幸福感、食べた方がそんなキモチになれるようにと込めています。

お店を始めたきっかけは、単純にクレープが好きだから。自分の理想を求めて作り続けたことが始まりです。生地やクリームは配合から考え、手作りにこだわりました。

販売は初めてです。パティシエでもない普通の人間なので、大目に見ていただけると幸いです。よろしくお願いします。

※予約はインスタからお願いします。1週間程前より個数限定で承ります。

インスタグラム @yotuba_crepe



店主

◇色丹島から根室へ

矢崎佑二の両親は大正時代に根室で出会った。母ミノは津軽五所川原の出身、父矢崎佐十（さとう）は富山、ともに農村の出である。佐十は長男だったが、実母を早く亡くし、父親が再婚したあと継母と合わずに13歳で家出。放浪の果てに新天地北海道へ渡り、のこぎり一丁背負って山々を巡る木挽（こびき）となった。中肉中背だったが、北限の海も山も生き抜いた頑健な体躯と、凍てつく原生林を自在に駆け巡る佐十の姿は、人か獣か一瞬の見極めを要した。富山には佐十の出奔時にまだ幼い弟がいたが、この人は時を置かずして神戸の菓子屋へ丁稚奉公に出された。まだ子供だったが、この弟（佑二の叔父）は後に腕ききの菓子職人となって、終生神戸に暮らした。

現在の根室で、納沙布岬まで足を延ばすと「島の歴史館」に様々な歴史資料が展示されている。壁面いっぱい到手作りされた色丹島地図には元島民の家々が戸主氏名を付して記され、アナマ地区を辿ると入江の端に小さく「矢崎」と姓だけが見える。ミノと佐十の家、矢崎佑二が生まれ育った家。おそらく元島民有志が地図を作成する際、この家の姓だけは記憶されていたが、戸主の奇異な名前「佐十（さとう）」の方は誰も思い出せなかったに違いない。矢崎一家は終戦を待たずに離散したが、辛うじて島の地図に残された痕跡は彼らの暮らし20年の証。



後年、佑二は島の幼馴染で同年齢の浜辺高文（たかふみ、通称タミ）に再会した。たまたま登別温泉で恒例の「色丹会」が開催され、佑二は五十代半ばで初参加。元島民たちが「ゆっこ、生きていたのか！」と歓喜して迎えてくれた時のことである。浜辺氏が佑二に語ったところによると、1945年（昭和20年）8月の終わり、終戦の後になってソ連兵が突然島へ侵攻してきた日、村で屈強の若者だった氏は着のみ着のまま避難する島民たちを小さな漁船に寄せ、船を操って根室へ逃げた。ソ連兵の銃弾が飛んでくる中、恐怖に震える人々の上にむしろを被せ、命懸けでアナマ湾から根室港へ二往復した。だが、後になって近隣の住民から「タミは同じ村の者しか助けなかった」と心無い中傷を受けたと言う。（E.K）

あなたも、ともかなでお店をやってみませんか？

ともかなレストランでは、月曜日の第2・第4週と火曜日の第1・第3週に空きがあります。料理の好きな方、お店をやってみたい方等大歓迎です。自慢の料理を提供してみませんか。問い合わせは0143-88-2626（たすけ愛事務所）まで

一緒に働きませんか？

高齢者、障がい者の方を介護するヘルパーを募集しています。働く日数や時間は問いません。経験、未経験も問いません。詳細は優サービス（88-3003）河津まで

◇幸せなにぎやかさを…

今年の西胆振地区の公立高校の受験倍率は 1 校を除いて、ほとんどの学校で 1 倍を下回りました。子供の数が減っているのです。

この町でも子供たちが集まって遊んでいる公園を見かけなくなって幾久しいです。

子供が本当に激減しているのですね～誰もいない寂しい公園が増えているようです。

日本の現在の子供(15 歳未満)の数は 1366 万人で、全人口の 11.1%です。44 年連続で減少しています。

私の世代が生まれる前の戦争直後の昭和 25 年では、全人口の 35.4%、この年代が若者になり社会を支え出す昭和 40 年で 25.6%ですから、今は不思議なほど子供が減少しています。

60 年ほど前の私が子供の頃には、確かに日本のあちこちに子供が多く賑やかで幸せな風景がありました。

私は昭和 36 年 4 月幌別小学校 1 年 4 組に入学しました。男子 24 人、女子 29 人、53 人のクラスです。今ではあり得ない大人数ですが、たいした問題も起きず、皆すくすく小学校生活をおくっていました。1 学年で 200 人を超しているのです、全校で 1200 人を超えています。

遠足も各学年 200 人を超す人数で郊外の山野に繰り出していたのですから、凄い光景です。

幌別西小学校もありましたので、幌別地区だけでも多くの小学生が賑やかにこの町のあちこちで集まり、遊んでいたのです。

1200 人をはるかに超す児童と、その家族や親戚がグラウンドに集まっての文字通りの大運動会が行われていたのですから、町を挙げての一大イベント、幸せの大賑わいです。

その他にお祭り、各地区での盆踊り、子供が夜に住宅街に繰り出す七夕、あちこちの路地では子供たちが集まって、縄飛び、ゴム飛び、ビー玉、ケンパ、八廻戦などなど、晩御飯の時まで楽しい声が溢れていました。

物はいっぱいあるけれど、何となく閉塞感に覆われているような現在の雰囲気とは違っていました。当時は物が少ないけれど、心は貧乏ではなく、「明日は今日より良くなる」という希望がありましたよね!



「次の時代を担う子供たちは、社会の存続と発展に欠かせない…」あの時、そんなことは考えたこともなく、ただ多くの子供たちが集まり、遊び、賑やかな声が街に溢れていただけです。大人たちも、その風景を喜んで、一生懸命に働いていただけだと思います。

「明日は今日より悪くなるかも…」そんな雰囲気を吹き飛ばすのは子供たちの笑顔と笑い声の賑やかさでしょう。私たち昔の子供も、四の五の言わず、ひたすら町の子供たちの伸び行く姿に目を細めて喜び、一緒に笑い、慈しんでいれば、この町に桃源郷は甦ってくると信じましょうよ!皆さん!! (丸山一孝)

◇お知らせ

◆総会のご案内

第32期総会を開催します。運営会員の皆さまのご参加をよろしくお願いいたします。

- ・日時：5月19日（火） 11：00～
- ・場所：ともかな

◆設立記念日

4月15日（水）は、いぶりたすけ愛32年目の設立記念日です。
たすけ愛の事務所はお休みさせていただきます。



◆不要な本等がありましたらご寄付ください

雑誌・図鑑・写真集・文庫本・CD・DVD・レコードなど。

今年度は20,860円の活動資金になりました。ご協力ありがとうございました。
今後ともよろしくお願いいたします。

◆賛助金のお願い

原油価格の値上がりにより、特に福祉有償運送が厳しいやり繰りです。皆様のご支援をお願いいたします。

<室蘭信用金庫 富士町支店 普通 5463008 名義 トクヒ)イブリタスケアイサン
ジョキン>

◆イオンの幸せの黄色いレシートキャンペーン

毎月11日の「イオン・デー」に、買い物をした黄色いレシートを「いぶりたすけ愛」のボックスに入れていただくと、合計金額の1%が活動資金として寄付して頂けるシステムです。今年度は9,300円いただき、台所用品を購入することができました。登別イオンでお買い物の際にはご協力をお願いいたします。

◆いぶりたすけ愛でたすけ愛活動を体験してみませんか？

「いぶりたすけ愛ってどんなところか知りたい。」「何かできることをしたい。」など興味のある方のご連絡（電話88-2626）をお待ちしております！

編集後記

生後2ヶ月の孫が遊びに来ました。育児という、忘れかけていた記憶が徐々に蘇ってきても、子育て事情の変わりように、結局タジタジ。

そんな中、朝方に弱い地震があり、寝ている孫を気にしながらどうやって命を守るかと考えました。その時は小さい揺れで終わりましたが、この先大きな災害が起きないよう願い、命の大切さを思う今日この頃です。（上田優子）